

令和3年度 学校評価報告書

学校名	三田市立武庫小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

未来を生き抜く力と健やかな「からだ」の育成

2 今年度の学校重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の展開
- タブレットをはじめとしたICT機器を活用する力の育成
- 規範意識や道徳性を育む教育の推進
- 「共生」の心を育む教育の充実
- 子どもの体を育てる教育の推進
- 体力・運動能力向上をめざした教育、運動を好きになる教育の推進
- 特別支援教育の推進・充実
- 教職員の資質向上
- 地域とともに歩む学校づくりの推進
- 業務改善・校務のスリム化による勤務時間の適正化

3 総合的な自己評価

- ・学習指導については、「ICT機器活用技能の向上」を念頭に置き、各教科において教職員はもとより児童がタブレットを中心とした情報機器を活用する場面を積極的に取り入れた。学年を問わず大多数の児童がログインからアプリを起動し、学習した結果をオンラインで提出するまで、自力でできるようになったことは大きな収穫である。
- ・「地域とともに歩む学校づくりの推進」については、学校地域運営協議会において、育てたい児童像を共有し、学校内外の状況について意見交換をしながら、児童を育てていくために必要な取り組みについて考えることができた。
- ・問題行動、不登校については例年同様、発生件数が多い。子どもの心に寄り添い、家庭、地域との連携のもと、計画的かつ組織的に指導を進めており、今後もそうする必要がある。

4 総合的な学校関係者評価

- ・コロナ対応で大変な中、学校が組織的に子どもたちを育てようとしていることがよく伝わってきた。学校行事等も工夫され、学校の努力と苦勞がよく伝わってくる。子どもの育ちは学校だけでなく、家庭や地域においても取り組むべきことがある。それぞれができることを確かめながら取り組んでいきたい。
- ・学校評価に関して、目標が高くなる、あるいは全児童の状況を見ているからか、児童や保護者に比べ、評価が厳しめになるのはやむを得ない。これからも、子どもたちの様子を見ながら指導願いたい。
- ・子どもたちの様子をもとに、保護者の理解をさらに深めるような取り組みを考えたい。
- ・学校教育目標を継続し、明るく元気な子どもたち、未来を生き抜く力を育てていきたい。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
道徳 人権教育	・年間指導計画に準じて指導を行う。	度重なる変更等があったが、工夫して計画に沿った指導が展開できた。	他の教科や領域、学校行事等との関連性を考慮し、生活指導と絡めながら道徳性の育成を進める。	児童の落ち着きについて学校の取り組みを評価する。
	・自尊感情の高い子どもを育成する。[わたし]	3割近くの児童が自分の良いところを見だせていない。昨年度同様、活躍、評価される場が少なかった。	オンラインをうまく活用し、学校行事をはじめとした特別活動の機会を充実させ、達成感を持たせる。	保護者が思っているよりも児童のほうが自己肯定感が低い傾向にある。学校と連携しながら自尊感情を高める取り組みを探ってきたい。
	・差別を許さない、他者を大切にすることを育成する。[あなた・みんな]	ほぼすべての児童が友達を大切にできていると感じている。	「友だち」のとらえ方が「仲良し」ではなく、「他者」に広がるよう、仲間づくりを進める。	引き続き、児童の関係をつなぎ、よりよい関係を構築してほしい。
研究推進	・主体的、対話的で深い学びが実現できる授業を構築する。	「対話」が難しい中、オンラインで意見を共有した。	「対話」のあり方についてオンラインをさらに活用し、意見交流の場を設ける。	コロナ対応で難しい部分もあるが、引き続き対応を願う。
	・児童の学力を向上させるための手立てを考え実践する。	学習内容が理解できていないと感じる回答がある。	基礎基本の定着に向けて、時程の工夫や家庭教育を促す手立てを考える。	放課後子ども教室等、地域の教育力を活用し、児童の基礎基本の定着に向けた取り組みを推進してほしい。
	・研究実践を評価し、多様な教科領域に生かす。	リモートを活用し校内研究推進を図ることができた。	タブレットの活用をさらに多様な教科や、授業外の活動に広げる。	児童の操作技能の習得状況は好ましいが、家庭や地域と連携したトラブルの予防策にも取り組みたい。
生徒指導	・教職員は生活指導の方針を共通理解し、指導に温度差なく「チーム武庫」として指導にあたる。	あいさつ、話を聞く、時間を守る、が十分ではない。	形を整えるだけでなく、日常の中で繰り返し指導し、習慣化していく。	教職員の協働が見て取れる。家庭の協力も必要であると考え。
	・保幼中や地域、関係機関との連携を図る。	丁寧に連携を図り、情報共有に努めることができた。	現状通り、幼稚園、中学校と綿密な連携を継続する。	あいさつ運動等、地域との連携もさらに充実させていきたい。
	・本校の「いじめ防止基本方針」にのっとり学校全体で組織的な取り組みを行う。	問題行動やいじめの解決に組織的に取り組めた。	問題行動を少しでも早く把握し、対応できるよう、組織的な児童理解に努める。	問題行動の減少に向け、地域の教育力も活用しながらともに取り組んでいきたい。
家庭・地域 との連携	・保護者や地域の思いや願いを把握する。	コロナ禍により、昨年度に引き続き学級集会等が開催できなかった。個別対応で保護者の声に対応した。	会の開催等が困難な状況において、保護者や地域の願いを把握できるよう、日ごろの関係性を大切にする。学校運営についても地域の願いを取り入れる。	ホームページや学校地域運営協議会にて情報発信がされている。さらに連携を充実させるとともに地域としても学校をサポートしたい。
	・コミュニティ・スクールの充実を図る。			
	・地域と連携・協力した取り組みを積極的に進める。	コロナ禍により、地域の教育力活用について制限がかかった。できる範囲で取り組むことはできた。	教育活動において必要な支援をコーディネーターと連携しながら取り組んでいく。感染防止対策の定着を見ながらできる範囲で活動を広げていく。	子ども達にいろいろな出合いを体験させ、視野を広げてやりたい。ボランティアの確保が課題であり、地域としても人材を発掘するので、積極的に活用願う。
	・地域の人材を積極的に活用する。			

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
12月	教職員アンケート（学校の運営について72項目）
1月	児童アンケート（学校生活・家庭生活について16項目）
1月	保護者アンケート（児童の育ち、学校の様子について19項目）

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
7月	第1回学校関係者評価委員会（委員委嘱・学校評価の趣旨確認）
12月	第2回学校関係者評価委員会（学校評価の方向性の報告・検討）
3月	第3回学校関係者評価委員会（学校評価結果の検討）

※学校自己評価・外部（児童生徒・保護者・地域等）アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
随時	学校だより	学校評価の結果及び今後の改善策を記載、かつ保護者に配布。	
随時	学校ホームページ	今年度の学校評価の結果及び今後の改善策を記載。	